

Successful treatment of food allergy with Nambudripad's Allergy Elimination Techniques (NAET) in a 3-year old: A case report

Caroline B Terwee

Cases journal 2008, 1:166

【症例報告】

ナムブドゥリパッドアレルギー除去療法 (NAET) で食物アレルギー加療に成功した 3 才児例

キャロライン・B・テルヴィー

要約

食物アレルギーは子供たちとその家族にとって大きな重荷となりうる。3才の女児が乳、砂糖、卵白、豚肉やその他の食物に不耐性で、湿疹や呼吸困難を起こしていた。彼女は、運動機能学（キネシオロジー）と鍼灸理論を組み合わせたナムブドゥリパッドアレルギー除去療法 (NAET) の施術を受けた。7回（4週間の間に）の施術後、彼女は症状から解放された。3年経っても、彼女は何でも食べることができ、症状は出ていない。この症例報告は、食物アレルギーの子供たちに NAET が有益である可能性を強調する。食物アレルギーを扱う上で NAET の有用性を研究する、無作為臨床試験が望まれる

背景

食物アレルギーは 4-6% の乳幼児に生じ、生命を脅かす過敏反応の主要な要因である。食物アレルゲンの誤食はよく起きるが、それは乳、砂糖、ピーナッツ、卵といった食物が広く行き渡っているためであり、ラベル表示の不備や加工過程の混入がそれに輪をかけている。食物アレルギーは子供たちとその家族にとって大きな重荷となりうる。子供たちは食餌の制限に苦しみ、ある種の食物（しばしば甘いお菓子、クッキー、アイスクリームといった魅力的な食物）を食べられなかったり、パーティーのもてなしを受けられなかったり、友人宅で食べられなかったりする。親は食物誘発性アナフィラキシーの恐怖と、かわいそうとか罪悪感などの感情に悩まされる。さらに食事に費用や時間がかかったりすることも多い。多種の食物にアレルギーがあれば、制限された食材で栄養バランスが崩れ、さまざまな健康問題を生じる結果にもなる。その重荷と、食物アレルギーが広く増加していることを考えると、より良い診断検査と加療が明らかに必要とされている。

症例呈示

3才の白人女児が、月齢6か月時にRSウイルスに感染して以来、食物アレルギーに悩まされていた。彼女は乳、砂糖、卵白、豚肉やその他の食物に不耐性だった。これは除去および負荷試験にて確認されている。これらの食物を摂ると48時間後に上背部に湿疹ができ、続いて鼻水、咳、ついには呼吸困難になった。女児は呼吸困難がひどいときには気管支拡張剤（ベントリン）を使っていた。

2005年6月、4才になる1か月前に、彼女はナムブドゥリパッドアレルギー除去療法 (NAET) の施術を受けた。NAETは運動機能学と鍼灸理論を組み合わせたものだ。運動機能学（筋反応テストとも呼ばれる）がアレルゲン判定に使われる。続いて、子供がアレルゲンと接触しながら、鍼灸の押圧（鍼灸経絡上の特定ポイントを刺激）が用いられる。施術後は毎回、子供はアレルゲンとの接触を24時間避けなければならない。1回につき1個のアレルゲンが施術される。7回（4週間の間に）の施術後、不耐性だった食物をひとつずつ再開した。何の不都合な症状も観られなかった。2か月後、その子は症状なく何でも食べられるようになった。6か月後、新しい歯磨き粉を使い始めた後に再発が見られ、乳を摂ったあと湿疹を発症した。NAETで二酸化チタン（歯磨き粉に含まれる美白剤）の、そして再度乳の施術をされた。3回の施術後、不都合な反応はすべて除去された。3年後の2008年6月、彼女は何でも食べることができ、症状は出ないままである。

討論

NAETは非浸襲性で薬を使わない代替統合療法で、西洋医学（アロパシー）と伝統東洋医学（例えばカイロプラクティック、運動機能学、鍼灸）から借りた知識や技術の組み合わせに基づく。（訳注：カイロプラクティックと運動機能学

は伝統東洋医学ではありませんが、原文のままに訳します。) 何千年も前に築き上げられた中国医学によると、健康とは個人の内での、そして個人と自然の間での、均衡のとれた状態と定義される。経絡と呼ばれるエネルギー通路を流れる生命エネルギーが存在する中でだけ、体は機能するのだと考えられている。経絡を通るエネルギー流に途絶があると、エネルギー障害(過剰もしくは不足)が生じ、症状や病気を引き起こす。エネルギー流の途絶は、感染・内臓機能障害・感情的ストレスといった、いかなる肉体的・心理的外傷でも生じうる。経絡理論は、エネルギー経絡のエネルギー遮断、そしてエネルギー遮断がいかにして機能的均衡障害や疾患につながるかというメカニズムを説明してくれる。

NAET 施術者によるとアレルギーとは、その人の電磁エネルギーとアレルゲンの間のエネルギー不均衡と考えられる。特定筋の弱化が検知されるのは、その人のエネルギー野内に特定項目が持ち込まれたとき、その対応する弱筋を栄養している特定の脊髄神経根のエネルギー障害が発生するためだという仮説が立てられている。筋反応テストはこの仮説に基づく。何であろうと脊髄神経根にエネルギー障害を生じうる項目が、アレルゲンと考えられる。IgE 媒介性アレルギー、細胞性免疫アレルギー、過敏症、不耐症の区別はされない。

さらに NAET 施術は、その人がアレルゲンに接触しながら、後根神経節にある特定の求心性・遠心性神経と侵害受容体を刺激(鍼灸の押圧)することにより、かつての刺激の特質を、異なる信号でもって新しいものへと変えることができる。この変更された刺激が、アレルゲンに関する新しい情報を大脳皮質の適切な領域へ運ぶ。そして脳は、この新しい情報についての反応を体内のあらゆる細胞に中継して伝える。新しい情報が 12 経絡すべてを通過するには、24 時間がかかる。今まで活性化されていた免疫反応は、不活化されるか新しく中継された信号に置き換えられるか。かつて有害と受けとられていた物質は、今では相対的に無害であると認識される。

NAET 療法はただ 1 人の人が開発したものであり、異論のある療法と考える人たちもいる。しかしながら NAET は、非侵襲性かつ比較的安価で実施も容易だ。ならば NAET の有用性を、殊に食物アレルギーの子供たちにおいて、無作為臨床試験で研究する価値はあるかもしれないだろう。これはまだなされていない。

結論

この症例報告は、食物アレルギーの子供たちに NAET が有益である可能性を強調する。特に乳幼児にとって食物アレルギーの重荷を考えると、食物アレルギーを扱う上で、NAET の有用性を研究する無作為臨床試験が望まれる。

同意

この症例報告の刊行には、患者の父親から書面での同意が得られている。同意書面の写しは、この雑誌の編集長に照会可能である。

利益相反

著者は症例の母である。

翻訳：安達智江 M.D